

## 第104回全国高校野球選手権青森大会

3  
回  
戦

八学野西	1	0	2	0	0	1	3	0	0	7
工大一	1	0	4	0	1	1	0	0	0	8

(延長10回)

(八) 樋口、斎藤—伊藤

(工) 村木、金淵、廣野—葛西

▷三塁打 小笠原、天間 (八) 長谷地 (工)

▷二塁打 柴田、天間 (八) 葛西 (工) ▷暴

投 樋口 (八) 廣野 (工)

▷試合時間 3時間0分

(球審—西谷、塁審—長内、木村均、後藤)

【評】工大一は延長十回、長谷地の中越え三塁打と四球で無死一、三塁とし、田中の適時野安打でサヨナラ勝ちした。3番手の廣野は八回以降踏ん張った。八学野西は粘り強く食らい付いて延長に持ち込んだが、十回2死二塁の好機を生かせなかった。



【八学野西—工大一】7回八学野西1死一、二塁、天間佑紀が7—7の同点に追い付く右越え三塁打を放ち、拳を突き上げて喜びを爆発させる＝はるか夢

# 野西無念、紙一重

○…2回戦で劇的なサヨナラ勝ちを収めた八学野西。2試合連続で延長戦を制することはできなかったが、第4シールド校に真正面から渡り合い、相手エースを引きずり出して得点を奪うなど、あと一歩の所まで追い詰めた。

初回、柴田守唯主将と主砲小笠原涼の連続長打で先制。中盤までにじわじわと引き離されたが、選手たちに諦めの色はなかった。

チームのハイライトは七回。1点を奪い、なおも1死一、二塁の絶好機で打席に入ったのは天間佑紀。相手主戦の3球目の直球を真芯で振り抜くと、「良い手応えだった」という会心の打球は右翼手の頭を越え、走者2人が生還した。2回戦でも見せたチームの粘り強さがこの試合でも発揮された瞬間だった。

試合には敗れたが、天間は「力は出し切れた」と充実感をにじませた。寺嶋恭祐監督も「チャンスであと一本は出なかったが、選手は実力以上のものを出してくれた。120点の出来だった」と集大成の舞台で躍動した選手にねぎらいの言葉を贈っていた。

八学野西・斎藤亮太（救援し6回を3失点）「打球はいつもより低めのコースにまとまっていた。やり切ったので悔いはない」